

北海道開発分科会 第5回計画部会 議事概要

1. 日 時：平成19年10月31日（水）13:00～15:00
2. 場 所：中央合同庁舎3号館10階 共用会議室B
3. 出席者：〔委員〕南山部会長、嵐田委員、加藤委員、坂本委員、櫻井委員、佐藤委員、生源寺委員、田村委員、濱田委員、宮谷内委員
〔北海道局〕品川北海道局長、井置審議官、参事官、総務課長、予算課長、地政課長、水政課長、港政課長、農林水産課長 他
〔北海道開発局〕北海道開発局開発監理部次長

4. 議事次第

- (1) 開会
- (2) 議事
 - 1) 第8回北海道開発分科会の意見について
 - 2) 新たな計画の基本的事項について
 - 3) その他
- (3) 閉会

5. 議事及び主な発言内容

1) 第8回北海道開発分科会の意見及び2) 新たな計画の基本的事項について、資料2、資料3をもとに事務局から説明を行い、起草委員から補足がなされた後、議論が行われた。

○ 起草委員からの補足

- ・ 第1章で計画の哲学を記し、第2章でそれを基に具体的な目標を打ち出し、これを達成するための具体的な施策を第4章で記す構成になっている。第3章は計画を進めるにあたっての価値基準を示す部分。
- ・ 日本が時代の大転換期を迎えているということを、道民、国民にどう発信するかがポイント。
- ・ 経済や環境のバランスという観点から、グローバル化が進む中で北海道が自立的発展の模範例になること、地球環境問題に対して先駆的な取組を行っていくことを目標として掲げ、これに多様で個性的な地域の形成を加えた。
- ・ 北海道イニシアティブは、最初に必要性を述べた後、北海道スタンダードと先駆的取組の2種類の取組を通じて北海道イニシアティブを発揮していく構成にしている。いかに道民、国民に受け入れられやすい書き方にするか苦労した。
- ・ どうしても表現したいことは2点。1点目は何故北海道においてのみ国が計画をつくるのか、その意義をはっきりと国民に訴える必要があるということ。2点目は、北海道は他地域より発展が遅れているから国の関与が必要であるという流れではなく、北海道が国の課題に率先して解決していくという流れにすること。

○ 総論部分（第1章～第3章）について

- ・ 国に貢献する以前に、北海道が国の足を引っ張っている事例が散見される。例えば貿易収支は赤字、観光は最近元気を失いつつあり、家庭からのCO2排出量はトップで、全国でもいち早く少子高齢化が進行している。まずはこうした問題を解決

するための取組が必要なのではないか。計画は理想からスタートしていないか。

- ・ 計画を具体化するためには手段とのリンクが必要。その手段の1つとして道州制特区が考えられる。道州制という言葉を書き載せる必要はないが、地域ごとの特区構想に結びつけられるような書き方ができると、一般の人々に分かりやすく、文章にもメリハリをつけられるのではないか。
- ・ 総論部分はずいぶん良くなった。国家的課題の部分は、グローバル化、環境問題、少子高齢化という順番も含めて秀逸。
- ・ 農業は、グローバル化の部分に具体的な施策に結びつくような内容を書き加えられないか。
- ・ 第3章の北海道イニシアティブの発揮も、いいワーディング。北海道の他地域より遅れている部分が、むしろ打って出るための好条件になるという側面があり、そのような転換を進めていけるといいのではないか。
- ・ 第2章の目標が第4章の具体的な取組に繋がるという流れからすると、最初のイメージ図で第3章が大きく記載されているのは邪魔に感じる。ビジュアル面で修正の余地がある。
- ・ 北海道イニシアティブについて、具体的な内容を考える必要がある。まっさらなところから新たに制度をつくる余地はほとんど無いので、既存の施策の見直しを中心になるのではないか。摩擦を生むだろうが挑戦してもらいたい。
- ・ 戦略的目標の「地域力ある広域分散型社会」という表現は弱い。「広域」「分散」と同じような単語が続いている上に、事実しか述べていない。「広域連携社会」や「広域交流社会」のように方向性を含んだ言葉の方がいいのではないか。
- ・ 北海道の域内総生産が約20兆円となっているが、実際は19兆6千億程度。
- ・ カラマツは、林齢が偏っているため、持続的な伐採が出来ないと聞く。P12にカラマツ人工林等の森林資源が「充実」とあるが、表現に検討が必要。

○各論（第4章）について

- ・ 北海道庁の新しい計画は、先日、道議会で集中審議が行われた。北海道の独自性・優位性、地域産業の振興、札幌一極集中の是正、疲弊する農山漁村対策、6つの連携地域の連携内容等について、記述が薄いという意見をいただいた。必要な修正を行い、北海道総合開発委員会の諮問答申を経て、道議会での更なる議論を経て成案としていきたい。前回説明時からの主な修正箇所は、北海道の独自性に関する記述を追加したこと、地域経済に関する部分に第1次産業についての項目を設けたこと、計画の推進体制について追加したことの3点。
- ・ 「広域的な生活圏」と北海道庁の計画の「6つの連携地域」との関連について整理していきたい。
- ・ 北海道庁の計画では、札幌都市圏は、道全体の牽引役や北海道の玄関口として国際交流機能や学術研究機能を発揮しつつ、札幌市と他の都市とで機能を分担し、相互にメリットを享受しあえる関係を構築することが必要であり、交通ネットワークや情報ネットワークの形成など、連携を深める施策を推進することとしている。
- ・ 札幌の昼間・夜間人口を見ると、石狩市、小樽市との関係では、札幌から働きに出ている人のほうが多い。また、設備更新の際に工場等が札幌市外に移転するケー

スも増えている。このように、従来とは異なる動きが見られるようになってきている。市単位でなく、圏域単位で語る時代。

- ・ 北海道全体で互恵の関係をつくるため、足がかりとなる事業を立ち上げたい。
- ・ 環境保護については、自然の保全、CO₂の排出抑制の両面から、札幌市が先鞭をつけたい。北海道洞爺湖サミットの開催される来年を環境元年と位置づけ、省エネ技術を導入した家庭への補助やトラックの天然ガス利用の促進といった施策を考えている。北海道イニシアティブはこうした取組の後押しになる。
- ・ 日本全体の計画である国土計画は、開発から形成に表現を変えたが、北海道はまだ成熟期に入っているとはいえ、開発、基盤整備が必要。
- ・ 前回と比べると具体的な施策が盛り込まれたが、その中でも目玉となるものを打ち出せないか。例えば環境保護の具体的な施策として、国際環境機関を10年以内に誘致するというように、行動を起こす動機付けになる施策があると良いのではないか。
- ・ 北海道が元気になるためにはソフトパワーも重要であり、こうした点も計画に取り入れるとメリハリがでる。
- ・ 最近ではEPA等の進展などから、農業が国際的に激動しており、この動きを国内農政の転換にもつなげる必要がある。食料生産基地として北海道が打って出るといえることをもっと言えると良い。食料供給力の強化だけでなく農業の構造改善もあわせて取り組む必要があるのではないか。パイロット自治体といった形で、株式会社の参入など他のモデルとなる施策に取り組むと、先駆性も生まれる。
- ・ ネットワークに関しては、道外の人々がどうやって訪れるのかという視点が重要。大事なものは空港・港湾・新幹線。道路の記述を薄め、空港・港湾の記述を強めて道外・海外の人を対象としたほうがシンパシーをうけやすい。
- ・ 交通事故の減少を目指す部分も量が多いので、全体とのバランスを検討すべき。
- ・ 第3回計画部会で寺島氏（三井物産戦略研究所長）の講演を聴いて、北海道の地理的特性は世界でも極めて有利であるという自覚をもっと持つべきだと感じた。世界戦略における北海道の重要性が増加しているという、寺島氏の講演の趣旨を織り込めると良い。
- ・ 農業・食品産業と観光の連携に関して、サービス業は全体的に中小・零細企業が多く、力を発揮しきれていない。地域や同業者で集まって勉強会を開くといった、レベルアップをはかるための取組があるといい。
- ・ 北海道は「自然との闘い」のレベルが他地域とは異なる。自然の圧倒的さ、奥深さをもっと強調していい。フットパスの整備に関していえば、ちゃちなものではなく本格的なものをつくるべき。北海道には初級者向けから上級者向けのものまでそろっているということをごだせるといい。
- ・ イギリスでは、サッチャー首相以来民間主導で計画を策定してきたが、再び、国が主導しはじめた。民間と国で計画をつくり、第三者機関が評価する体制をとっており、参考にできるかもしれない。
- ・ 民間に関する書きぶりがもう少し強くてもいい。

- ・ 同じ一次産業でありながら、農業・水産業は食に関する部分、林業は新しい産業に関する部分に入っており、林業はここでいいのかまだ悩んでいる。農業・水産業を北海道の強い部分として打ち出したことで、林業が孤立している。環境に入れられないか。
- ・ 製造業が明示されていない。北海道の立地の良さを活かす、という文脈で触れられている程度。グローバル化の中で北海道の産業を考えるに当たって、製造業に触れることは避けられないのではないか。どこかで触れられないか。
- ・ 後志では、脳・心臓の病気になると、小樽や札幌まで1時間、2時間かけて行かないといけない。命に関わるものとして道路整備をお願いしたい。立派な空港があっても、空港と地域を結ぶ道路の整備が遅れている。農産物を消費地に運ぶのにも時間がかかる。道路の整備はまだ必要。
- ・ 農業は規模の拡大が進んでいるが、まだ強化が必要。イギリスは食料自給率が低下していたが、現在は70%を超えている。国家的政策として農業を考えてもらいたい。
- ・ 第3章までは比較的短く、第4章の分量が多くなっているが、一枚もののイメージ図ではそれが表現されていない。全体の中で重い部分が分かるようにする必要がある。
- ・ 起草委員会では、目玉をどうするかについても議論し、4章は細かいことが書かれているので、書くなら第1章～第3章といった議論もあった。各委員からプロジェクトを提出していただいたが、決め手に欠けるということで現在検討が止まっている状況。
- ・ 圏域については一度記載を試みたが、グローバリズムの中での北海道という方向性と6圏域とはベクトルが異なるため、記載しないこととした。広域的な生活圏が形成されると、結果的に北海道が特色ある地域から構成されるという流れで整理している。
- ・ 北海道の自然の深さを記述すべきという話、農業経営の近代化に触れるべきという話などについて、引き続き検討を進めたい。
- ・ 森林と製造業の位置づけを考えることが必要。北海道において、森林は環境面やものづくりの面などから、様々な位置づけが考えられる。現在伸びている、また伸ばそうとしている製造業についても考慮が必要。

以 上

(速報のため、事後修正の可能性あります。)